



# 果樹特報 No.5

令和5年 5月16日

J A中野市営農センター  
J A中野市りんご・もも部会

今回の内容：第7回散布 褐斑病について

・梅雨は炭そ病、輪紋病、褐斑病の重要防除時期です。散布量を多めに設定し樹全体に万遍なく散布してください。なお病害防除は予防散布が基本となりますので、散布予定日に降雨が予想される場合は前倒しで散布してください。

・散布の入替えについて：春先の生育の進みが早く、散布時期が1週間ほど早い状況にあります。対象病害虫によっては散布適期から外れてしまう場合がありますので、農薬の入替えや移動をさせていただきます。特報等でお知らせしますので最新の特報をご確認していただき散布をお願いいたします。

\*第6回の薬剤散布内容は特報No4(5/1配布)を参照ください。

**◎お知らせ(散布時期移動)：防除暦に掲載している第7回散布のオンリーワンフロアブル(褐斑病対策)について、散布適期から外れてしまったため、次回以降に繰り下げいたします。散布の際はご注意ください。**

## ● 第7回 6月中旬(定期散布)

\*前回から14日後

散布時期	6/10～15頃 *現時点での目安です。生育により前後します。	【6月中旬 定期散布】 散布日： 6月 日 散布量： リットル
散布薬剤	水 1000 展着剤(ハイテンパワー) 10ml ラビライト水和剤 200g (30日前、1回) サイアノックス水和剤 100g (14日前、1回)	
対象病害虫	褐斑病・炭そ病・輪紋病・斑点落葉病・シンクイムシ類・キンモンホソガ・ハマキムシ類・リンゴワタムシ・クワコナカイガラムシ若齢幼虫	
散布量	10a当り 6000	
注意事項	① 【代替】ハイテンパワーに替えてササラ2,000倍でもよい。 ② 【代替】サイアノックス水和剤に替えて、(劇)ダイアジノン水和剤34の1,000倍(30日前、4回)でもよい。 ③ 幼果カルシウム補給：カルタス1,000倍を加用する。 目安：第5～7回まで連続散布。	

## ● りんご褐斑病について

昨年は8月中下旬頃から散見されました。再度発生箇所、感染時期等を確認していただき防除に努めてください。

- ① 初期発生部位：主に、果そう葉、新梢基部葉
- ② 発生箇所：主に、樹冠内部、園地外周(薬剤のかかりにくい部分中心)
- ③ 病斑特徴：病斑部が緑色で、その周りが黄化する。
- ④ 感染時期：主に6月下旬～7月。発病までに1ヶ月程度。降雨により感染拡大。

### 【SSの送風量と薬液の付着程度】

	SSに <u>至近距離</u> の枝	SSから <u>遠距離</u> の枝
送風量が高い	薬液が <u>付着しにくい</u>	薬液が付着しやすい
送風量が高い	薬液が付着しやすい	薬液が <u>付着しにくい</u>

### 【斑点落葉病と褐斑病の違い】



次面もご覧ください

## 着果が不足する園地の着果管理・樹体管理について

平坦地中心に、凍霜害の影響による結実不良が確認されております。下記を参考に可能な限り着果量を確保するとともに、樹体管理に努めて下さい。

### 1 着果状況を把握して下さい。

- ・地域（平坦地、霜道など）、園地、品種により状況が異なります。
- ・生育の進んでいた園地や品種の被害が大きい傾向です。
- ・高標高地で生育の遅れていた園地は被害小さい傾向です。
- ・樹の上下でも被害異なる場合があります。樹冠上部の着果状況も確認して下さい。

### 2 摘果作業について

#### (1) 作業の順序

- ・例年通りの順序ではなく、被害の少ない園地や品種から進めて下さい。  
⇒例：シナノスイート、つがる → 秋映 → シナノゴールド → シナノリップ → ふじ
- ・三脚や高所作業車で作業をするところから進めて下さい。

#### (2) 残す果実（選べる場合）

- ・肥大の良い果実を残して下さい。中心花よりも側果が大きい場合は側果を残して下さい。  
⇒中心果の肥大が悪い場合、凍霜害を受けている可能性が高く、サビ果になりやすいです。  
⇒シナノリップの側果は、ひどいサビ果にはならない傾向です。
- ・頂芽が全てなく、えき芽果（1年枝の果実）が残っていたら、えき芽果を使って下さい。  
⇒えき芽果は、最終的に2階級程度小さい果実になると思われます。
- ・ツル（軸）が短い果実よりも、ツルが長い果実を残して下さい。  
⇒ツルが短い果実は扱いづらく、キズが付きやすくなります。

#### (3) 着果量が足りないときは

- ・樹勢コントロールのため、着果不良の場合は肥大不良、変形、さび等でも残して下さい。
- ・1果そう2果残すことは、最終的に両方の果実が大きくなるので、やらない方が良い。
- ・樹冠上部の被害が少ない場合は、着果数を上部に多め、下部を少なめにすることもできます。  
⇒30%増くらいが目安です。それより多くすると来年の花芽着生への影響が心配されます。

### 3 樹体管理（新梢管理）について

- ・初期の着果負荷が少ないと、新梢伸長が旺盛で葉も大きくなる傾向です。
- ・新梢の切除を行なう場合は6月中に実施して下さい。（7月から花芽分化期に入ります）

次回発行予定：6月17日  
内容（予定）：第8回散布  
第9回散布